

茅風



— Breeze from the field of thatch-grass —

2006年4月1日

森林塾青水

事務局便り

茅風通信 17号



- 今号の目次 -

06年1月～3月の活動報告/事務局	1
特集：第7回フィールドスタディ兼講座「コモンズ村・ふじわら」	2
群馬はまだ冬だった/大前清祿	2
かんじきづくり/武井民雄	2
雪の藤原に・参加して・/鈴木利雄	4
妻からも・少しだけ・/がっち	4
「雪の夜嘶〜〜〜カンジキ、野焼き」/川端英雄	5
「ススキ草原の野焼き」のご案内	6
編集後記 塾長のつぶやき	6

061月～3月の活動報告

事務局

1月23日(月): 新制みなかみ町訪問。浅川、清水が鈴木町長(前・新治村長)ならびに腰越助役(前・水上町長)と面会、グリーンツーリズム戦略推進委員としての活動実績と06年度の当塾事業計画につき報告、説明。「水と森の防人」宣言をしたみなかみ町、今後とも、町・地元・藤原集落・当塾の連携を密に活動を進める方針につき再確認した。

2月7日(火)および3月6日(月): NPO 法人ふるさと回帰支援センターを川端、井上、浅川、清水が訪問。高橋事務局長、本多部長と面談、藤原集落の古道整備＝フットパス作りをメインテーマとした“あなたのふる里作りませんか”キャンペーンの共同推進を提案。

2月17日(金): 持続可能経済研究所の牧所長をお招きし、滑志田、笹岡両顧問と幹事5名が出席して、農山村振興の担い手育成策につき情報交換。同所が推進中のインターシップ制を当塾の活動の担い手育成策として導入すべく具体化を検討することとした。

2月18日(土)～19日(日): 第7回フィールドスタディ兼講座「コモンズ村ふじわら」。最年少記録更新の鈴木雄大君(2歳!)を含む21名が参加。惣一郎さんの指導でマイかんじきを作り、翌日はそれを履いて雪原散策でみんな大はしゃぎ。現地事務所(元・教員宿舎)の雪堀りも木村さんの指導で全員参加、楽しみながら良い汗をかけた。詳しくは後記・特集欄ご参照。

3月4日(土): シンポジウム「利根川流域圏環境ネットワーク構築に向けて」に参加。腰越助役がパネルとしてみなかみ町の現状を報告の他、清水より当塾の取組状況など報告、アピール。今後の上下交流事業のあり方につき学ぶ所大であった。

3月7日(火): NPO 法人森づくりフォーラムの坂井事務局長と浅川、清水が面談。野焼き、茅刈り、フットパス作りをテーマとした事業の共同推進につき話し合い。同フォーラム傘下の有力団体に参加呼びかけを検討してもらうこととなった。

3月13日(月): 社団法人国土緑化推進機構・安井専務理事を海老沢、井上、清水が訪問。助成を受けた「藤原地区地域資源活用調査」の結果報告、お礼と今後の協力、支援方をお願いした。

1月11日、2月1日、3月1日、の各水曜日に月次幹事会開催。05年度活動実績の振り返り・反省とそれを踏まえた06年度事業計画案の検討を重ね成案作成。

4月1日(土): 青山の環境パートナーシッププラザにて06年度「総会」兼セミナーを開催。総会には17名の会員、セミナーには27名の会員・会友が参加、05年度事業報告・決算の承認ならびに06年度事業計画・予算案の報告、承認のあと、藤原地域資源調査の結果報告会と06年度講座「コモンズ村ふじわら」の計画説明会を行った。最後の懇親会は広川塾頭の挨拶、最年長・藤沢翁の乾杯の音頭と続き、地元から遠路参加の親男さん、木村さんも交え大いに盛り上がった。以上

群馬はまだ冬だった

大前清祿

和歌山生まれで雪国生活の経験がない。郷里では火祭りが多く一度は野焼きをやってみたくて、森林インストラクターの湯本さんに紹介されてすぐ入会した。塾長の話では下見もせずに入会したのは私が初めてとのこと。

いりあい

「入会の森」を見ずして入会し 生伏

新聞やテレビで今年の雪の多いことは知らされていたので上毛高原駅に着いた時、雪の量もたいしたことなくこちら春なんだなと思っていた。林さんの車に同乗させてもらって藤原に行く途中の景色を見ながら考え方が変わってきた。屋根の雪、道路横に積み上げられた雪、駐車場に作られたカマクラや巨大な雪だるま。まだ冬なんだ！

アブラチャンの木を曲げて下拵えをしてくれた惣一郎さんの指導でカンジキを作った。爪全体や爪固定のみぞの作り方、針金の留め場所のこと等、作業が終わってから「そうなのか」とあとで気付くことが多く、力のいる作業だったが楽しくできた。クロモジでも作れるそうなので曲げるのは大変だろうけど、帰ったら小型のものを作ってみようと思っている。

いりあい

昨日作ったカンジキで入会の森を歩いた。看板が埋もれていて2メートル50センチ程の雪が積もっているとの事。ノウサギ、鹿、テン、狐の足跡の見分け方。オシッコ、フン、巣穴、等を惣一郎さんに教わった。



散策中には塾長はじめメンバーのオヤジギャグが飛び交う。シャレの好きなジジイはどこにでもいる。(私もそのひとり。ご迷惑でしょうが笑ってやってください。)ミズナラにはヤマブドウの蔓がたくさんからみついている。秋には黒い実をつけ熊もとりに出てくるそう。その頃にもぜひ来てみたいものと思った。驚いたのは72才の惣一郎さんがヤマブドウの蔓にぶら下がりよじ登ったこと。聞けば申年の生まれとか。群馬のサルは強かった。



現地事務所の雪下ろしをした。下の部分は凍っていたり一気にずり落ちてきたりして大変だったけれども、体験をさせてもらい雪国のたいへんさも少しわかった気がした。役場の木村さんの話では水上町でも除雪作業中に怪我人も出ているとの事。屋根のテッペンで雪切り作業をしてくれたがその体重(100キロオーバー?)で家がつぶれるのでは?とちょっと心配した。

「入会の森」では「アルプスの少女」のハイジやペーターが乗っていたようなソリで滑ることは出来なかったけれども、メンバーは数十年としを戻して足を上げて背中で雪の上を滑り、童心に戻って鈴木さんの子供さん達と共に楽しんだ。この下では山野草がいまか!いまか!と春をまっているんだらうな~。

石ばしる 垂水の上の 早蕨の
萌え出づる 春になりけるかも
志貴皇子

春よこい! 早くこい。

皆さん お世話になりました。

かんじきづくり

武井民雄

2月18、19日にわたってのフィールドスタディと講座に参加させていただきました。会員のU御夫妻と私、同僚のH女史と連れ立って、月夜野インターをおりて山道を登っていくと、次第に路肩の雪が目立つこと。遊山館に着くころには、雪の壁が頭上はるか、大雪だるま「藤原フっちゃん」が出迎えてくれました。

「・・・が減っては戦は出来ぬ」とまず、カレーうどん、カレー雑炊で、腹ごしらえ。そうこうしているうちに、阿部惣一郎さんが、軽トラになにやら山積みにして到着。秋の茅刈でお世話になったお顔に、懐かしさがこみ上げてきました。



惣一郎さんが荷台から降ろすものを見ると、□の形の杵、細長い板、縄、針金、工具さまざま。

ひとしきり邂逅を楽しんでいると、参加者の皆さんが続々到着、また懐かしい面々。塾長の清水さんの呼びかけで、30分後にかんじき作りに入ると言うことで、思い思いに昼食をとりました。

まず、塾長のあいさつ、続いて惣一郎さんのカンジキの使う目的の説明、「これを履いて山の中に入っていくんサー」と炭焼きや狩猟のために、山に入るお話に納得。なるほどカンジキを履かなければ、雪に埋まってしまうでしょう。実は私、現地に着いて喜び勇んで、雪の中に足を踏み入れたとたん、膝までズッポリ・・・。

さて、材料の説明、□型の杵は、「ジシャ＝アブラチャン」といクスノキ科の落葉樹木のもので、惣一郎さん曰く、「その辺にいくらでもあるけど、カンジキの材料にできるのは少ないんサー」。適当な太さで曲がっていなく節が無いものとなると揃えるのが大変だ、と言うことです。さらに、□字型に矯めるとなると・・・。一同、そのご苦労に感服。



カンジキの構造は、大きめの□に小さめの□を固定して楕円形をつくるもの。□の重なり合った2箇所に「爪」はめ込んで、針金で三～四重に巻き上げて固定します。次に、靴を乗せる足場作り。楕円形の前後二ヶ所、左右に縄を何重にも渡して、さらに巻き上げて「つり橋」の様にします。ここまでくると完成です。

はじめの作業は「爪」作り。これも自然の「イタヤカエデ」から板まで製材したものです。ノコギリの音とノミを打つ槌音が入り混じり工事現場の様。惣一郎さんは教を乞う参加者に引っ張りだこです。「爪」は上に突き出す2cm、杵の太さの寸法、雪に突き刺さる部分4センチと鉛筆で墨をつけ、杵の太さの部分がはまるようにノミでくぼみを刻みます。これを両足2本ずつ計4個作ります。

私はノミで刻みを入れる作業に没頭、金槌でノミを打っていると時間が経つのも忘れます。杵の丸みにあわせて刻みを入れようと悪戦苦闘しているうちに、其処此処で縄を巻く作業に取り掛かる参加者。気がつくとき刻は5時近く、気持ちは焦りながらも、杵に爪をはめ込み、針金で巻き上げるところまで出来ました。多くの皆さんは、完成していました。

ここで1日目の実習は終わり、夕食には初参加の大前さんの手作りビールをご馳走になり、ビール作りの苦労話を聞かせていただきました。食事の後は、有志が集まり春の野焼きの相談になりました。例年のない大雪のせいで、時期が2週間程度遅れるだろう、と地元の雲越さん。延焼を防ぐために、雪の山で防火帯をつくらなければならず、ブルドーザーで雪を寄せて茅を露出させて野焼きをすることになります。去年、一昨年と防火帯作りに骨を折られた地元の皆さんに頭が下がる思いでした。さらに、野焼きの将来を見通した話し合いもされて、会議は終了しました。



2日目も青空が広がり、カンジキハイキングの絶好の日和。車に分乗して、塾が管理する入会いりあひの山に向いました。山に着くと一面の白銀、ここで茅刈をしたとは思えない別世界です。それぞれ、自作のカンジキを縄でくくりつけて、雪原に踏み出します。駆け出す人、おそろおそろ歩く人など様々。ちなみに、私は惣一郎さんのカンジキを借りました。雪に足をとられることもなく、爪が雪を噛み傾斜も楽に登れました。途中、ウサギの足跡を発見、山に上がると眺望が開け、山見となりました。惣一郎さんから、「あれが谷川岳、遠くに見えるのが新潟国境」と説明を受けつつ、間近に見る谷川に圧倒されました。



さらに山を登り、寝そべて尻スキーに興じ子供に帰った様です。十郎太沢?の源流に向う途中、テンの足跡も発見、テンテンと歩んだ様子でした。

時間となり、スノーハイクは終了、山を下って現地事務所の雪降ろしの作業に一汗流し、昼食をとって散会となりました。

あつと言う間の2日間でしたが、とても中身の濃い時間を過ごすことが出来ました。阿部惣一郎さんと塾の皆さんのご苦勞に感謝申し上げます。

フィールドは雪が深く、一面真っ白でした。子供連れということもあり、手作りのカンジキを履いての散策は、急斜面には行けず残念でした。皆さんはおそらく湧き水の出ている所まで見にいかれたのですが。カンジキを雪の中で初めて履いた感想としては、雪上を楽に歩くことが出来ることと、靴底にある木のくいのようなものがスパイク代わりになっていて、よく出来ているものだと感心したことです。せっかく作った貴重なものなので、今回きりではなく大切にしながら機会があればまた活用したいと思っています。



雪の藤原に・・・参加して・・・ 鈴木利雄

私も母の実家が千葉県大原にあり、子どものころよく裏山に登って遊んだのですが、今回この感想文を書くにあたり遠い昔の記憶がよみがえってきました。裏山にはやはり湧き水が流れており、その辺

の木の枝(それが竹だったかどうかは定かではありませんが・・・)をストロー代わりにして水を飲んだりしたことが鮮明に憶いだされます。30cmくらいの幅の水の流れているところにはオオサンショウオがいたり、ときには蛇も・・・。

そんな自然の中で育ったおかげか、今回藤原のフィールドを素直に受け入れることが出来ました。地元の話では若い人が出て行ってしまうとのことでしたが、若い人はふるさとがあって都会に行くのであって、村を捨てているわけではなく、村に何かがあればみんな戻ってくるのではないかと思います。森林塾青水と地元の人とのかかわり方は、あくまでも地元優先の付き合い方で、それも素晴らしいことだと思いますし、必要なことだと思います。

いろいろ感想を書かせていただきましたが、きっかけを作ってくださった清水さんに感謝するとともに、機会がありましたらまた参加させて頂きたいと思っています。

追記 インターネットの時代。なんでもわかる世の中。カンジキをじかに作ったり、雪のフィールドに行ったりと、一見時間がもったいないと思われがちな今、実はそんな風な時間の過ごし方が一番大切なことではなかるうか、と思っているひとりです。



妻からも・・・少しだけ・・・ がっち

一生懸命に作ったカンジキを持って初めて目にした雪のフィールドは、抜けるような青空のもと、あまりに気持ちよく・・・思わず口をあぐりと開けたまま立ちすくんでしまうほど素晴らしい景色でした。きっと皆さんもそう感じられるから、フィールドでの様々な作業に携わっておられるんだろうナアと、素直に感じられました。

夜のミーティングで地元の方から野焼きのお話を聞いたときも、カンジキ作りができるようになるまでに、春に木を探すところからはじまる準備の大変さに、それはそれは興味深く、そして奥の深さにただただ聞き入ってしまいました。ほんとうに温かい気遣いで。

料理も食べきれぬほど出て、とても居心地のよい宿でした。

なにより、2歳と5歳というちびっ子を連れて行ってしまったのに、参加している皆様方にほんとうに面倒を、とても暖かい眼で見て頂いて……ああ、こういう気持ちの人たちだから、だからこうしてフィールドで活動していけるんだナアと、あらためて感じました。

清水さん、お声をかけて頂いてありがとうございました。また、皆様にお会いできる日を楽しみにしております。

「雪の夜嘯〜〜カンジキ、野焼き」 川端英雄

「今年の野焼きは去年より2週間おくれたなあ」万枝さんが口火を切る。

今夜の顔ぶれは目新しい人が多い。2歳、5歳の子どもさんも参加の婦唱夫随(かな?)鈴木一家、武居さん、高橋さん、関岡さん、新川さん、^{じい}爺ビール差し入れの大前さんなど。

そんなこともあってフィールドのおさらいをサラッと。雪国での野焼きは珍しいこと、しじみ蝶を筆頭に生物の多様性が見られること、かつては今の10倍の面積の入会地だったこと、綿雪とザラメ雪の違いなど……。

話は核心へ進む。1月までに降った根雪は遅くまで溶けないのか、温暖の日が続けば一気に溶けだすのか、雪の溶け具合で野焼きの日が決まる。久しぶりの豪雪にさすが地元の古老にも答えはすぐには出せないようだ。

「雪に左右されないように、この際、防火帯を作ったらどうだ?」防火帯の位置や幅についてはすぐに地元の意見もまとまるが、完璧に防火の役目が果たせるかは自信無げ。やはり、雪の壁の方が防火にはきわめつきのようだ。町の優秀な行政マン木村さんから、森林法に準じて作られた骨董品ものの防火条例の紹介がある。古くてもこの町の条例があったから、野焼きが始められた様子もうかがえる。

結論が出にくい中で話はフィールドの森林化の状況や、野焼きの効用、ススキの品質などをさまよう。ここで新発見。今までの認識では、細くてまっすぐ伸びているのが良質なススキだったが、今夜の話では太くて揃っている2mくらいのが良質だと。細いのは芽だしのときに腐りやすい。また、野焼きをすると、雑木などに取られていた養分がススキに充分提供され良質なものができるが、良い芽になるには時間がかかる。藤蔓などが火に焼けて鎌の通りがよくなり、カヤ刈りしやすくなる効用もあるなど、結論を出すまでしばしのティータイム。そういえば今夜はまったくのノンアルコール。コモンズにとって歴史的な一夜だ。

野焼きの盛り上げ方などにも触れた後に出した結論は、「野焼き実施予定日の2週間前に結論を出そう」。神様しか知らないことに、いま結論を出すのは早いということ。かな?

テレコになってしもうたが、今回の講座のメインテーマは「カンジキづくり」。

藤原に到着早々の昼食を終えて、新装成った「遊山館」

の会議室でところ狭しと10余名が思い思いにひろがる。

15台のカンジキの材料となるアブラチャンの採取に始まる、小1年の惣一郎さんの準備の苦労なんてことはすっかり忘れ、皆さん童心に帰ってギーコギーコ、トントン。「生きてるって、こういうことなんだあ!」と思わせる風景。



後日のために聞き書きしたレシピを残します。

1. まず全体像をイメージしてみる。
径の異なるU字型のわっか2本を長円形におく。U字型が重なる部分に爪を立て、爪の前後を針金で固定する。爪をはさんで固定された長円形のほぼ中央部、爪の両側に長円形を横断してビニール紐を張り渡す。ここに足を乗せ、U字型と長靴をやはりビニール紐で固定すれば雪原を軽やかに歩ける。(分かるかなあ?)
2. 秋あるいは春先に山の斜面に生育しているアブラチャン(エンジュ、ミズナラ、コマエビ、クロモジも材料になるそう)を採取、湯またはたき火で樹皮をとり、墨付けし、曲げ、乾燥させ、ユタの煮汁で染めるとU字型のわっかが出来上がる。
口で言うのは簡単だが、かなりの手間隙がかかっている。墨付け、曲げる型枠は惣一郎さん考案の独特の道具。また、材料そのものも近年探しづらいう。
3. 惣一郎さんが準備してくれた、径の異なる2本のU字型を手許におく。
4. 径が大きく、前方がやや上方に曲げられているU字型を前方に、小ぶりでまっすぐなU字型を後方に、それぞれ開口部を相対させて置く。この2本のU字型を長円形に組み合わせるが、内側になる小ぶりでまっすぐなU字型の後方がやや長いほうが歩きやすいので、適当な位置に組み合わせる。このとき、5、で述べる針金が巻きつきやすく、移動しにくいようにU字型にレ型の切込みを入れる。外側のU字型には外側に、内側のU字型には内側に各2箇所ずつ。それぞれ、レ型の垂直部分を先端側にかつ先端から2cm程度離れた位置に切り込みを入れる。
5. 6、で述べる爪とU字型がしっかりと組み合わせ出来るように、外側になるU字型の内側に、5ミリ程度の浅さとやはり4、で述べる板の横径(3cm程度)に合わせた長さで切込みを入れる。この組み合わせがしっかりとつかないと、雪原を歩いたときにがたつく原因となる。

6. イタヤカエデ(ミネバリがもっとも強い、ホウモ可。秋、春先に切り出して乾燥させておく)で作った8cm×3cm×1cm程度の大きさの爪といわれる板の平面部分に、U字型のアブラチャンがすっぽりはめ込みできるような浅い、5ミリ程度の切込みを入れる。5、のU字型の切り込みと爪の切り込みがしっかり固定して、雪上でのスリップを防止する。雪を咬みこむ方の爪の先端の角ばった部分を削り落とし、滑らかに雪を咬みこめるようにしておくのがコツ。
以上までの材料はもちろん惣一郎さん任せとなる。
7. 長円形に組み合わせたU字型に、2本の爪をセットする。4、で述べたU字型の重なったレ型の切り込みに針金を巻きつけて2本のU字型と爪を締め付ける。巻き数は3~4回。ペンチで針金を締め上げ、締め付ける。このとき、外側の大きなU字型の前方部分がを上に向くようにセットする。カンジキの先端部分が上方に向いていれば雪

を押し付ける形となって、先端部分が雪の中に突っ込まないようにするためだ。巻き終わった針金の先端部分はU字型の下方になるようにしておけば、針先に引っ掛けて怪我をすることが避けられる。

8. 組み合わされた2本のU字型の中間に、ビニール製のひもを張り渡す。足を乗せるため。(ひもの張り方およびU字型と長靴の結わえ方は、私が製作にあせていたため惣一郎さんの話をろくすっぽ聞いておらず、記録がありません。いつれ7、までの部分も含め惣一郎さんの校閲を頂いてからあらためて発表したいと考えています。)

いやあ、レシピを作るってことは疲れますね。自分の作った(実は3/4は惣一郎さんに手直ししてもらったのですが)カンジキはいま、自分の部屋の壁にかかっています。立派なインテリアのひとつです。もちろんこのカンジキで、雪原を鈴木さんのお子さんと手をつないで歩きました。立派に役にたちました。

終わり

森林塾青水第1回FS「ススキ草原の野焼き」のご案内

40年ぶりに再開されたススキ草原の「野焼き」も今年で3回目となります。地元・藤原地区の野焼き経験者の指導で、延焼防止方法の研修を受け、約2分に火を入れます。

とき(予定): 4月29日(土) 予備日30日(日)

実施日は、現地の雪解けの程度や天候により、1週間前後、変更することがあります。

ところ: 群馬県水上町藤原地区上ノ原

集合: 上越新幹線「上毛高原駅」午前10時20分、車の方は、現地午前11時

宿泊希望者は下記事務局宛に申し込みください。: 藤原地区民宿「本家」

参加費: 500円(昼食代) 宿泊費6500円(1泊2食)

問合せ: 「森林塾青水」事務局代理 = コミュニティ・デザイン内(浅川潔)

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-60-6-702 電話 03-3408-8670、ファクス 03-5474-0847

E-mail: sinrinjyuku@fiberbit.net

申込み: ファックス、E-mailにて上記事務局まで。

締め切り: 4月22日

参加者には後日、詳細スケジュールをお送りします。

編集後記 塾長のつぶやきー

2月18, 19日。積雪3mの藤原で平成17年度最後の講座「コモンズ村ふじわら」。嬉しいことに初参加者が4組8名。しかも、雄大君2歳、利々奈ちゃん4歳の過去最年少コンビや新川のお兄ちゃんも加わって平均年齢が大幅若返り。全員無事に、かんじき雪中散策と雪掘りで楽しみながら良い汗をかいた。それもこれも、惣一郎さんの周到なご準備と根気強いご指導の賜物。ありがとうございます。

事務局・川端レポートのかんじき作りレシピ。惣一郎師匠の校閲未了ながら、まことに貴重なる記録。将来、国レベルの重要伝統生活用具製作レシピ集にでも採録、保存されるべきほどのもの。藤原伝統彫を継承する大坪保吉さんの手になるものなど、他にもまだまだ沢山ある。

3月20日、箱根仙石原のススキ草原を見聞。雪はなく、気のせいか藤原のより丈が短く細い感じ。最大の違いは防火帯の有無。昭和45年から中止していた火入れを平成元年から再開したと聞いた。10m弱の幅で切られた防火帯。藤原もこれだな、と思った。雪=防火帯なら防火帯=雪の代替の道理。近隣住民の皆さんに安心、ご納得いただけるようなチャンとした防火帯を二、三年かけて作る。フィールド整備事業で最優先すべき課題であったのかもしれない。

昨年末以降、幹事会の都度、これまでの活動の振り返り反省会をもった。参加者の皆さんのアンケートにも耳傾けた。共通の、そして最大の課題はいかにして“楽しみながら良い汗をかき”だった。一生懸命が過ぎると楽しめない、楽しんでばかりじゃ良い汗はかけない。ほどほどに、そしてメリハリを、というところか。ま、ゆっくりと、歩きながら考え、考えながら歩んでまいりましょう。

春の水 あたらしき生命 わく兆 (青)